解放の炎をうけつぎ

子どもの広場 II

部落解放研究所編

子どもの広場Ⅱ

解放の炎をうけつぎ

部落解放研究所編

子どもの広場Ⅱ
解放の炎をうけつぎ　　**定価 750円**

1975年9月10日　第1版発行

編　集　部落解放研究所
発行所　解放出版社
大阪市浪速区久保吉町1247
印　刷　凸版印刷株式会社
製　本　大同紙工

はしがき

『子どもの広場I――涙をだしたら負けになる』をだしてから五か月になる。この間、大ぜいの皆さんに、いろいろな意見をいただいた。「第二号はまだか」といわれる声には、これらの意見全体がこめられているように思う。第二号がおくれたことを、おわびしておきたい。

第一号を出すときにお伝えしておいたのだが、これらの作品は『部落解放』にいちどのせられたものである。しかしこの第二号では、それももちろんあるが、新しく奈良・高知・福岡から追加していただいた。おかげで、内容はいっそう充実してきた。どこの子どもたちが、いつごろ書いたものか。そうしたことを念頭において読んでいただきたいと思う。

第一号は、私たちが予想していたように、ひじょうに広い範囲の方がたに読まれている。同盟支部の皆さん。とくに青年の皆さん。学校の先生。もちろん、子どもたち。子ども会や識字学校でも使われている。学校の授業でもすすめられていると聞いている。たいへんありがたいことである。

しかし、この号でもいっておきたい。こうして多くの皆さんが読んでくれているが、その意図をつきつめていけば、子どもたちが豊かにのびているだろうか、賢く、りっぱな子どもになってほし

い、という一念につきる。それ以外のものではない。だから、子どもたちひとりひとりが、まずこれをすすんで読んでいただきたい。一人で読むだけではなく、子ども会で、学校で、みんなをさそい合って、読み、考え、批判をし、そして、ここにあげた作品より、いっそうすぐれた作品を書いていただきたい。

そのことは、この本文の中からも知ることができる。一つの作品を、何人かで書いたものがある。学級会の討議をふまえて皆で書き、その一部をのせたものもある。子ども会での討議や自分たちの考えも、くわしく書かれている。こうした傾向は、これから差別に立ち向かい、たたかっていく子どもたちが、必ず通らなくてはならない道だろう。忘れてはならないことだと思う。

この第二号も、たくさんの方がたにお世話になった。作品をのせてくれた子どもたちの皆さん。指導にあたってくれた学校や子ども会の教師・指導者の皆さん。「かいせつ」してくれた教師の皆さん。これが、ほかでもなく解放教育の体制というものだろう。今後の活動もおねがいしながら、とりあえずお礼を申しあげておきたい。

一九七五年八月

部落解放研究所

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

もくじ

はしがき

生まれ育ったほこりを……1

ぼくの学校／南　穆彦　2

沖縄で生まれたほこりを／比嘉なをみ　4

部落差別に気づいて／梅本延子　11

わたしの村／北田りゆ子　18

働く人たちの苦労を……23

おかあさん／田中千賀子　24

差別されたこと／にむら　ちぐさ　27

父の転職／中島貴仁　30

おとうさんの仕事／佳代子　34

失対労働者の苦労を／上仮屋三枝子　37

ひとこと言える勇気を……41

みかんのかわ／よしざき さちえ　42

つらかったこと／たけたに あきよ　45

うるしにまけたとき／小まわり かつみ　50

健康優良児について／岡本真由美、麻野くるみ、山田めぐみ、松下佳弘、滝口新吾、西本浩樹、田伏幸治　55

ひとこと言える勇気を／新町直美　61

かけがえのない一人として……67

研修会に参加して／志磨村俊二　68

石川青年について／寺岡守信　71

矛盾／穂苅ちなみ　74

私の進路保障／平山智子　79

部落問題について／西本靖美　84

差別とたたかって……91

わたしのなかま／大仙西小学校六年一組　92

部落差別について／上田朝美　102

差別にまけないで／仲田ひとみ　106

ある友人の話／上北敦子　108

差別と人権／M・N　114

みんなの団結を／池ノ上健児　120

ほんとうのなかまになるために……123

じょうきゅうせい／まつくま しゅうじ　124

じぶんについて／中西暎子　127

わたしと暎子ちゃん／谷口恵子　128

けんすい／岡本広沢　132
あくび／酒井良子　134
なかま／後藤淳美　135
父親参観日について／南　誠香　137

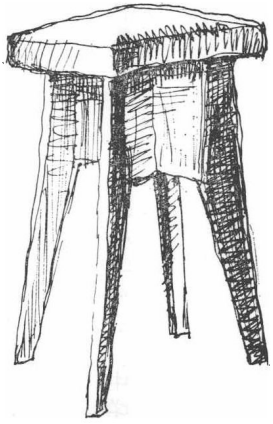
みんなの力をあわせて……143
えみちゃんとうんどうかい／やすたけ　ちえ　144
白さぎグループ学習会／八尾嘉津子　153
ひとりひとりを大切に／東市小学校六年二組　162
気づいたぼくら／尾崎正昭　167

解放の炎をうけつぎ……175
高校進学について／新　要　176

解放の夜明けへ／北村　和　182
せいいっぱい解放運動を／寺岡裕美　185
団結の力で／石崎和代　189
解放のために／野島富士夫　191
解放の炎をうけつぎ／山下千種　194
なぜ書くのか――但馬・下網場の子ども会で……中村拡三　198
これから文章を書くときのために……国分一太郎　212
あとがき……242

表紙・とびら・さし絵
増井　清（奈良・東市小学校）
田仲敦三（奈良・葛上中学校）
植村　寛（奈良・三郷中学校）

生(う)まれ育(そだ)ったほこりを



此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

ぼくの学校

南　穆彦
（大阪・和泉市幸小　六年）

ぼくたちの小学校と、来年からぼくが行く中学校は、よその小学校や、中学校から

「あの学校は、ボロだ。」

とか、

「あの学校は、がらが悪い。」

とか言われるのが、いちばんくやしい。

それから、去年のことだったか、ぼくたちの新校舎が、二かいだちのをつぶして、三がいにするときのことでした。ぼくは、うるさくて、うるさくて勉強ができなかっ

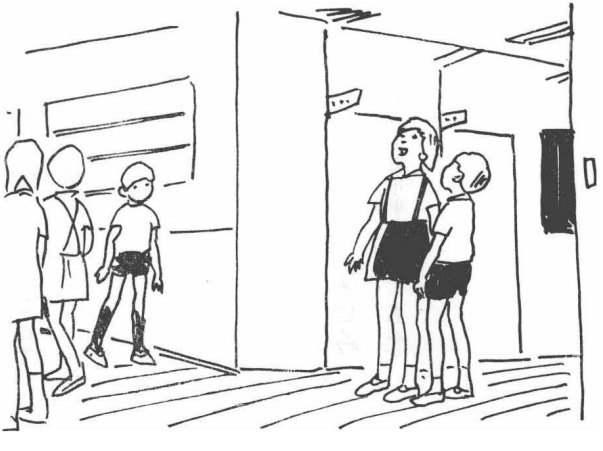
た。それだけではないのです。

ぼくたちは、五年生の終わりに、この新校舎にはいりました。そして十日ほどたつと、てっきんの新校舎なのに雨もりがした。ろうかはヒビがはいっているし、歩くとグシリグシリとなることがある。

そのうえに、プールもないし、うんどう場だって、たおれるとけがをするような学校だ。

だから、ぼくたちは、バカにされるし、へんなことをいわれると思う。（'73年3月掲載）

〈かいせつ〉　校舎の増築と作者の生活、それをとりまく社会意識について書いてくれました。



でも、指摘するだけでとどまってはいけないのです。その指摘も、もっともっとくわしく、具体的に書くことがだいじなことです。作者が、とらまえた問題を解決していくためにも、まず、問題をくわしくとらえて表現することです。そのことで、はじめて作者の学級の友だちも、このことをとらえることができるのです。（深海）

沖縄で生まれたほこりを

比嘉なをみ
（大阪・堺市東陶器小　五年）

「沖縄人。」
「沖縄。」
「沖縄。」

と言っては、けいべつする。

この組のA君や、となりのC君、D君が、わたしに会うといつもこう言う。

わたし自身は、沖縄というりっぱな所で生まれ育ったということに、ほこりをもっている。

四年生のときまでは、そういうことを言われても気にしなかった。しかし、あす十五日に沖縄が日本にふっきするという日、沖縄のことについてテレビで、沖縄の人たちに、いろいろインタビューをしていた。その人たちのなかで、本土に行ったことのある人が、そのいやな思い出を語っていた。

その話のなかで、「沖縄、沖縄」ということばが出てくるたびに、心にいかりがこみあげてくるようになっている自分に気がついた。

「やっぱり本土の子のなかにも、沖縄や、沖縄の人たちをけいべつしたり、沖縄県民の気持ちがわかってくれていない人がいてるんだなあ」

って思ったら、なみだが出てきて、とまらなかった。

おとついも、給食の時間にA君がわたしのほうを見て、

「こいつのまゆ毛、続いてんがなあ。」

って、となりのはんのB君といっしょにわたしのほうを見て、わらいながら言った。

わたしが、沖縄で生まれ育ったということだけで、なぜそんなに、沖縄やわたしのことをけいべつしないといけないのかわからない。それは差別をしているとしか思えない。

沖縄から大阪に来たとき、りっぱな建物を見て、こんなところに住めるんだから、大阪に来てよかったなあと思いました。しかし、今は、もうそんなことは思いません。今

は、その反対で、こんないやな子のそろっている学校、いや、その大阪がにくいほどだ。

大阪市にいたとき、みんなといっしょに、なわとびをしていたら、わたしが、何をいったかわからないが、Eさんが聞きまちがいをしたらしく、わたしのほうを向いてわらっていった。

「比嘉さん、大阪べん使いはったわ。ああ、おかしい。」

あれからだいぶたちましたが、このEさんの言ったことばだけは、はっきりおぼえています。

わたしは、大阪べんをおぼえて、みんなとふつうにしゃべれるようにと、がんばっていたけれど、Eさんにこう言われてから以後、こんないやな子のいる、にくい大阪のことばをおぼえたってしかたない、と思うようになってしまった。

それで、わたしのことばは、むちゃくちゃになってしまった。それが原因で、友だちがへっていくような、不安な気持ちになったこともあった。

ふつうの子のように、少しからかわれるということだったらまだいいけれど、沖縄

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com